

2 ヒートアイランド対策

(1) ヒートアイランド現象の現状

ヒートアイランド現象とは、都市部の気温が郊外に比べて高くなる現象です。道路や建物の蓄熱や放熱、エアコンや自動車からの排熱などにより気温上昇作用が増大することや、樹木や水面から水が蒸発するときの気温低下作用が減少すること

などが原因と考えられています。

ヒートアイランド現象による都市の高温化を示す一つとして、日最低気温が 25℃以上となった日数（大阪管区気象台のデータ、熱帯夜にほぼ相当）を見ると増加傾向を示していましたが、平成 17 年以降は、概ね横ばいとなっています。

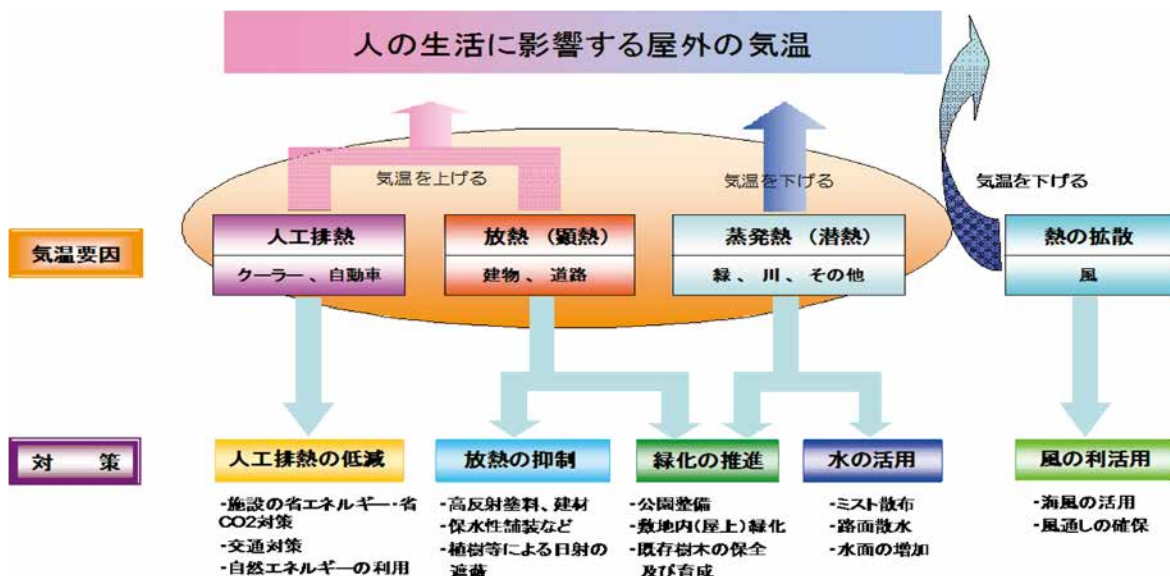


※ 10年間の移動平均：年平均気温の長期的な傾向を把握するため、その年を含めた過去10年間の年平均気温を平均し、その年の平均値として示したものと

(2) 主な取組み

ヒートアイランド対策については、大阪市ヒートアイランド対策推進計画に基づき人工排熱の低減、放熱の抑制、緑化の推進、水の活用といった

熱収支の改善に加えて風の利活用、市民・事業者等との協働を対策の基本的考えとし、次の取組みを中心とした施策を進めてきました。



① 公共施設での緑のカーテン・カーペットづくり

区役所、学校などの公共施設において、ゴーヤやサツマイモなどを使ったヒートアイランド対策に取り組んでいます。

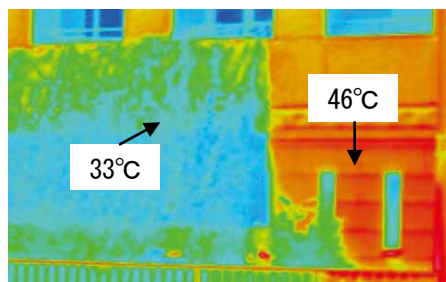
緑のカーテン・カーペットは、日差しによる建物の高温化を抑え、建物からの夜間の放熱を抑制する効果が期待できます。

また、室温の上昇を抑えることで、エアコンの使用時間を短くできるなど省エネルギー効果が期待でき、電気料金を節約することもできます。

建物の緑のカーテンで覆われている部分とそれ以外のところの表面温度を比較し効果を見える化することで、環境意識の向上を図ることができます。平成25年度も各区役所、学校など459施設で実施し、緑のカーテン・カーペットの普及拡大を図っています。



緑のカーテン



緑のカーテンの熱画像

② 「大阪打ち水大作戦」の実施

ヒートアイランド対策についての普及啓発事業の一環として、市内各所で市民、事業者との協働により、「大阪打ち水大作戦」を実施しています。

平成25年度 市民等との協働による実施 45か所



「大阪打ち水大作戦2013」の様子

③ 「風の道」における施策の推進

ヒートアイランド現象の緩和には、大阪湾から吹く涼しい海風を都心部へ誘導することが効果的です。また、ヒートアイランド対策の一つに「風」の活用を位置づけ、長期的な視点で、大阪湾からの涼しい海風を活用したまちづくりの指針である『風の道』ビジョン〔基本方針〕に基づき官民一体となった「風の道」における施策を推進しています。



交通局 Top Commitment

地下鉄・バスは「環境にやさしい」交通機関ですが、運行時に多くのエネルギーを使用するため、この事業自体によって生じる環境負荷を最大限に軽減する取組みを継続・拡大する必要があります。

地下鉄事業では、省エネルギーの取組みとして、機器の取替時等に電力消費量の少ない機器を導入するほか、回生電力の有効利用を図るため変電所へ大容量蓄電池を設置するなど、様々な省エネルギー機器の導入に努めています。

また、車両の空調装置の温度設定見直しによる消費電力の抑制や、新技術を用いた新型車両の導入を進めています。

バス事業では、車両の更新に合わせて、ハイブリッドノンステップバスなどの低公害車や最新の排出ガス規制適合車の導入に努めています。

これからも、より安全・便利・快適な輸送サービスをお客さまに提供するとともに、地球環境に配慮した施策を積極的に進めます。



交通局キャラクター
「にゃんぱろう」

水道局 Top Commitment

お客さまにお届けしている水道水は、自然環境と密接な関わりがあることから、水道局では、環境保全や環境負荷低減につながる取組みを推進し、環境に配慮した事業運営を行っております。これまでに、水道施設に関する種々の省エネルギー対策の実施や、太陽光発電、小水力発電の導入、さらには浄水場発生土の有効活用を始めとする廃棄物の減量化などに取り組むなど、さまざまな分野での環境施策を進めています。今後も、省エネルギー対策やリサイクルの推進による環境負荷の低減、琵琶湖における水源涵養林の保護や淀川での水質調査といった水源水質の保全に関する取組みの推進はもとより、水道の有する施設や技術を活用した地球環境への貢献策を実施することにより、環境にやさしい水道システムを構築し、大阪市の一員として「環境先進都市大阪」の実現をめざしてまいります。

水道局キャラクター
「びゅあら」

